地図

「富田町」地図(複製) 発行年不明 発行者:新日本教育社 縮尺1:12500

昭和19年の町制施行後の発行だが、いつのものかは不明。戦後間もない時期の発行ではないかと推測されます。原図の裏面には「6年 恒川・・・」と書かれていて、お近くの方が元の持ち主と思われます。

「愛知縣海部郡富田町畧圖」(拡大複製) 昭和31年 縮尺1:25000

昭和31年刊行の「富田町史」に収められているものの拡大複製。

「町史」は名古屋市への合併を記念して編纂されたので、ちょうど合併直後の富田地域の様子がわかります。この当時の人口は約11,000人。

航空写真(国土地理院所有のもの)

国土地理院では、「国土変遷アーカイブ事業」として、戦後から多く撮影されるようになった航空写真のデジタル化を進めており、デジタル化を完了したのものから順次データが公開されています。

今回は、公開データの中から、富田地域を撮影した航空写真を何枚か選んで展示しています。今回の展示写真以外にも、国土地理院のホームページでは、多数の航空写真を閲覧する事ができます。

国土地理院ホームページ <http://www.gsi.go.jp/index.html>

(国土変遷アーカイブ空中写真閲覧システム <http://www.gsi.go.jp/airphoto/>)

展示写真解説

* 写真番号は「作業名/コース番号/写真番号」の順番に表記しています。「国土変遷アーカイブ」で写真番号検索をしていただくと、展示写真のデータをご覧いただけます。アーカイブでは、住所や地名でも検索ができます。

★旧陸軍撮影写真

① 写真番号 : 97U(C)3/C2/76

撮影年:不明 (1940年代と推測) 撮影実施機関:日本陸軍

縮尺1:27000 撮影高度:不明

② 写真番号 : 97L24/C1/2

撮影年:1945/4/22 撮影実施機関:日本陸軍 縮尺1:30000 撮影高度:不明

こちらの2枚は、国土地理院の「国土変遷アーカイブ」で現在公開されている中で、もっとも古い富田地域の航空写真になります。①は撮影年不明ですが、終戦少し前に撮影されたものようです。田園の広がる農村地帯で、庄内川をはさんだ名古屋市域との大きな違いが見て取れます。

★米軍撮影写真

③ 写真番号:USA/M86-A-6/5

撮影年:1946/3/27 撮影実施機関:米軍 縮尺1:11976 撮影高度:1829m

④ 写真番号:USA/M86-A-6/25

撮影年:1946/3/27 撮影実施機関:米軍 縮尺1:11976 撮影高度:1829m

⑤ 写真番号:USA/M158-A-6/71

撮影年:1946/6/7 撮影実施機関:米軍 縮尺 1:11976 撮影高度:1829m

⑥ 写真番号:USA/M158-A-6/43

撮影年:1946/6/7 撮影実施機関:米軍 縮尺 1:11976 撮影高度:1829m

終戦後に、米軍が撮影した写真です。日本陸軍撮影のものに比べて、明るく鮮明に撮影されており、技術力の差を感じます。

★国土地理院撮影写真

以下の写真は、国土地理院が撮影したものです。富田地域の変遷が分かるものを選んで展示しています。

⑦ 写真番号:KK593YZ/A27A/9120

撮影年:1959/5/25 撮影実施機関:国土地理院 縮尺 1:27000 撮影高度:4100m

伊勢湾台風前の富田地域。この年の9月26日、歴史的な災害。

⑧ 写真番号:MCB687X/C4/3

撮影年:1968/5/16 撮影実施機関:国土地理院 縮尺 1:20000 撮影高度:3300m

⑨ 写真番号:CB689Y/C4A/6

撮影年:1968/5/24 撮影実施機関:国土地理院 縮尺 1:40000 撮影高度:6000m

伊勢湾台風の後に建設された市営住宅の様子がよくわかる写真です。

⑩ 写真番号:CB739Y/C4B/5

撮影年:1973/1/7 撮影実施機関:国土地理院 縮尺 1:40000 撮影高度:6000m

人口は戦後の4倍に。60年代半ば以降盛んに実施された区画整理事業の様子が分かります。

⑪ 写真番号:CB791Y/C4/4

撮影年:1979/9/11 撮影実施機関:国土地理院 縮尺 1:40000 撮影高度:6000m

助光住宅を皮切りに、県営住宅が次々に建設されています。この年、東名阪自動車道、名古屋―蟹江ICが開通しました。

⑫ 写真番号:CB91X/C3/3

撮影年:1992/3/9 撮影実施機関:国土地理院 縮尺 1:23000 撮影高度:3500m

91年に富田支所が現在の場所に新築移転し、この年国道302号線が全線開通しました。終戦後の写真と比べると、戦後宅地へと大きく様変わりしたことが分かります。